『西東京市
日本語スピーチコンテスト 2026』
記 録 誌

2026年 10 月4日(日)13:00 から

J:COM コール田無 にて

【主催】NPO 法人 西東京市多文化共生センター
【共催】西東京市

目 次

◆子どもたちからのメッセージ ・・・ 1

1. レ ヴォ ミン ウィ(小学4年)【ベトナム】 「大人になったらやりたいこと」

2. スベディ エンジサ(小学6年)【ネパール】 「ネパールと日本の違い」

3. 王 子軒 (中学2年)【中国】 「僕の日本語と靴のサイズ」

◆日本語スピーチ(発表順) ・・・ 5

1. 吳 宜樺 【台湾】 「日本での小さな幸せ」

2. TRAN THI DUNG 【ベトナム】 「西東京市での新生活」

3. 鮑 三國 【中国】 「実践している科学的なスマホ依存脱却法」

4. Iuliia Burtseva 【ロシア】 「穏やかな生活」

5. 陳 麗萍 【中国】 「日本に来て感じたこと」

6. 真理野 リューカ 【ブラジル】 「ブラジルはあぶないゾ」

7. KANCHAN YADAV 【インド】 「私が見つけた新しいふるさと－日本」

8. 馬 睿 【中国】 「電車がつないでくれた、私とこの街」

9. 郭 美玲 【台湾】 「日本に住んでわかった言葉のニュアンスといろいろ」

10. 毛 靖賢 【中国】 「初心忘るべからず」

11. Justine Annan 【ニュージーランド】 「私が見つけた日本」

◆当日の写真・・ 28

◆協力、協賛団体や企業・・・ 31

子どもたちからのメッセージ

スピーチが始まる前に、西東京市多文化
キッズサロン「子ども日本語教室」の
小中学生がメッセージを発表しました。

1.「大人になったらやりたいこと」

レ ヴォ ミン ウィ（小学4年）【ベトナム】



ぼくは、大人になったら、大学を卒業して、会社でコンピュータを使って仕事をして、お金をたくさん持って家を買いたいです。

お母さんとお父さんといっしょに住みたいです。

おくさんとけっこんして家族いっしょに住みたいです。

家族となかよく住みたいです。

大きい車を買って家族といっしょに遊びに行きたいです。家でねこを４ひきかいたいです。

それから、ぼくの家の庭には畑を作ったり、きれいな花を植えたりして自ぜんな町の感じにしたいです。

みなさんは、家ぞくとなかよくすみたいですか？

ぼくは、家ぞくととてもなかよくすみたいです。

ぼくのお母さんは、いい人でぼくのために仕事をして、とてもつかれているけれど、がんばって仕事をしてくれています。

ぼくが大きくなったら、お母さんのがんばったことを思って、お母さんのことを大切にします。

本当にお母さんのことを守って幸せにします。



2.「ネパールと日本の違い」



スベディ　エンジサ（小学6年）【ネパール】

私の名前は、スベディ　エンジサです。 ネパールから来ました。
日本に来て、2年たちました。 今12 さいです。 小学6年生です。
日本とネパールでは、いろいろ違うところがあります。きょうは、学校の違いと
食べ物の違いについて話します。

① 学校の違いから話します。

ネパールのかばんはリュックで、日本はランドセルです。 ネパールではリュックに
本やノートを 10 さつずつ位とランチボックスや水筒を入れるのでとても重いです。
日本と違いタブレットは使いません。
ネパールではお昼ごはんは、家からランチボックスを持って行ったり、学校のレストランで買ったり、
食べたりします。日本は給食があります。
ネパールでは、机は一人一人きまった机があるのではなく、長い机に 3～4人で座りますが、
日本は自分の机があります。私はみんなでいっしょに座る机も一人の机もどちらも
いいと思います。
ネパールでは、お休みは土曜日だけですが、日本は土曜日と日曜日がお休みです。

② 食べ物の違いを話します。

ネパールでは、牛肉は食べません。チキンやマトン、野菜が中心です。日本は魚や
ぶた肉、牛肉などさまざまなものを食べます。
ネパールでは、まめスープをのみますが、日本ではみそしるをのみます。
ネパールでは食べなかったけど、日本に来ておいしいと思ったものはやきそばです。
ネパールでは、手で食べるしゅうかんがありますが、日本でははしを使います。はしは
さいしょから使えました。
反対に同じものもあります。それはぎょうざとカレーです。
私は大好きです。



さいごまで、きいてくれてありがとうございました。

3.「僕の日本語と靴のサイズ」

王 子軒（中学2年）【中国】



僕が日本に来て学校へ通い始めたばかりの頃のことです。

中国では、学校で靴をはきかえる習慣はありませんでした。靴をどこにおいてよいかわからず、自分のうわばきの場所もおぼえていませんでした。

ある朝、靴箱にあった靴を適当にはけばよいだろうと思って、はきました。

しかし、その考えは間違っていました。しばらくして、その靴の持ち主に返しましたが、とても恥ずかしかったです。その時の僕は、まるでサイズの合わないきつい靴をはいているような気持ちでした。

顔も真っ赤になり、日本語が全く話せなかったのでとても緊張していました。どう説明したらよいのか分からず、ただ頭を下げるだけでした。

相手は僕をせめませんでした。それでも、僕はとても申し訳ない気持ちになりました。

この経験から、日本へ来る前にある程度日本語を勉強しておくことが大切だと思います。

日本語ができないと、きつい靴をはいているように、不安できゅうくつな気持ちになってしまいます。

これからは、自分にぴったり合った靴をはけるよう日本語をがんばって勉強していきます。



日本語スピーチコンテスト発表原稿

今年は、7つの国や地域出身の11人の方々が、それぞれの思いを語り、たくさんの観覧者が聞き入りました。

1.「日本での小さな幸せ」

吳　宜樺【台湾】



今日は、日本で生活していて感じた小さな幸せについて発表します。

東京の人は冷たいとよく言われています。実は、日本に来たばかりのころ、日本語が全然話せなかった私もそう思っていました。しかし、日本で生活する中で、思いがけない親切やうれしいことに何度も出会いました。そんな日常の小さな幸せのおかげで、日本人の温かさを感じるようになりました。

その中の一つが友達と一緒に行きたいお店の場所をスマホで調べていた時のことです。お孫さんを連れたおじいさんが声をかけてくれて、「どこへ行くの？」と聞いてくれました。私たちはだいたい道が分かっていましたが、おじいさんは丁寧に何回も説明してくれました。 そして、別れる時にお孫さんが「バイバイ」と手を振ってくれて、その姿がとてもかわいくて、心が温かくなりました。

また、毎週参加している日本語教室でのことです。ある日、親切な年配の先生に「春はたけのこの季節で、私はたけのこご飯を作るのが好きなんだけど、食べてみたい？」と聞かれました。

すると、次の週に本当にたけのこご飯と手作りの佃煮を持ってきてくれました。その気持ちがとてもうれしくて、自分の祖母のことを思い出しました。ご飯も佃煮も、心が温まるような優しい味がしました。

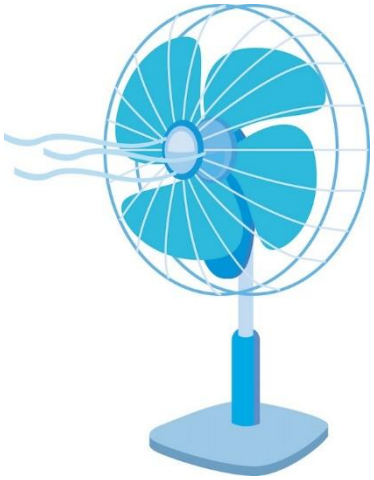
そして、一番印象に残っているのは、まだ日本語が話せなかった頃、電気屋で出会ったご夫婦のことです。ある日、家電の特売チラシを見て、朝早くから並びに行きました。そのご夫婦はちょうど私の後ろに並んでいて、待っている間に簡単な英語で少し話をしました。しかし、私の番になった時、その商品を買うためにはチラシが必要だと分かりました。 困っていたら、さっきのご夫婦が来て「大丈夫？手伝おうか？」と声をかけてくれました。その時は本当にうれしくて、涙が出そうになりました。おかげで、私は限定30台の扇風機を買うことができました。最後に別れる時、そのご

夫婦は私に「日本語の勉強を頑張ってね。」と言いました。その言葉を聞いてとても感動して心が温かくなりました。連絡先を聞かなかったことが今でも少し残念ですが、いつかもう一度会って、きちんとお礼を言いたいと思っています。

このような小さな幸せのおかげで、私の東京の人は冷たいというイメージが変わりました。

これからも、このような人との出会いを大切にしていきたいです。そして、いつか私も誰かに親切を返せる人になりたいと思います。

これで私のスピーチを終わります。ありがとうございました。



2.「西東京市での新生活」



TRAN THI DUNG　【ベトナム】

皆さん、こんにちは。

私は家族と一緒に、去年、西東京市に引っ越してきました。

西東京市での生活は、大変なこともありましたが、たくさんの素敵な出会いもありました。

今日は、その中から三つのエピソードをお話ししたいと思います。

まず、保育園探しのお話しです。

私たちには小さい子どもがいて、一番気になったのは保育園探しでした。

そこで、西東京市からの情報を調べてから、11園すべてに申し込みました。

ところが、その結果は、なんと、全部落ちてしまいました！

びっくりしたのは、申し込みの数がとても多く、入園に必要な点数もかなり高かったことです。正直、保育園の結果待ちのほうが、大学入試より緊張しました。

2回目も申し込みましたが、また落ちてしまい、次の募集を待つしかないと思いました。

でも奇跡が起きました。入園の２週間ほど前に、家の近くの保育園から「空きがあります」と電話がありました。そして、子どもは４月から保育園に通い始めることができました。

そのおかげで、私も日本語の勉強をする時間ができました。

次に、田無の図書館についてお話しします。

田無の図書館には子ども向けの絵本など様々な本があり、毎週子どもと一緒に借りに行っています。

子どもの図書館カードを作ったとき、大きなバッグをもらいました。

最初は、「本を入れるだけなのに、こんなに大きなバッグが必要なの？」と思いましたが、あとで理由が分かりました。絵本を借りてみると 、思った以上に大きい本が多く、大きなバッグの理由に納得しました。細かいところまで 考 えられていて、すごいと思いました。

また、図書館のウェブサイトで、予約できるのも本当に便利です。

そして最後に、日本語教 室についてお話しします。

西東京市には、日本語教 室がたくさんあります。先生たちは 熱心に、優しく、我慢強く教えてくださいます。

最初は日本語でのコミュニケーションに苦労し、「どう言えばいいんだろう？」と困ることがたくさんありました。先生方のおかげで、少しずつ上 達しました。

今では、以前より自信を持って日本語でコミュニケーションできるようになりました。

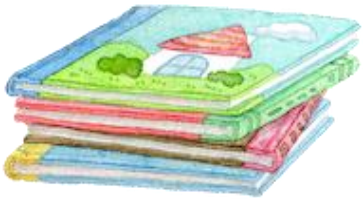
今日、皆さんの前で日本語でスピーチすることもできています。

私 にとって、このクラスは日本語の勉 強だけでなく、日本文化への理解を深め、ベトナム文化を紹 介する機会にもなりました。 いつも先生方に 心 から感謝しています。

西東京市はただの生活の場だけではなく、保育園や図書館、日本語教 室など、たくさんの素敵なものを与えてくれました。

私 は西東京市に住めて本当に 幸 せです。

ご清 聴 本当にありがとうございます。



3.「実践している科学的なスマホ依存脱却法」

鮑　三國　【中国】



皆さんは、一日にどのくらいスマホを使っていますか。

現在、私たちの生活にはスマホが欠かせないものになっています。仕事や勉強に活用すれば、とても便利で効率的な道具になります。しかし、その一方で、気がつかないうちに長い時間をスマホに使ってしまうこともあります。

社会が発展するにつれて、人々が依存してしまうものも変化しています。以前は、お酒やタバコ、パチンコなどが問題になることがありました。そして現在では、SNS やショート動画など、依存につながるサービスも多くなっています。

どうすればスマホの使用時間を短くすることができるのでしょうか。

私は「意志の力だけに頼らないこと」が重要だと考えています。普段から人間の本能や心理について学び、科学的な方法を探すことも必要です。そして、スマホ以外にも、健康的で楽しい趣味を持つことが大切です。

私は　いつも「目的を持ってスマホを使い分けます」。

勉強するとき、勉強専用のスマホを使うようにしています。そのスマホには、勉強に必要なアプリだけを入れて、それ以外のアプリは入れません。また、注意力を集中させるために、画面をモノクロに設定しています。

SNS などを楽しむための専用スマホについて、使用する時間帯を自分で決めています。これは、自分との約束です。

もちろん、毎日完璧にルールを守れるわけではありません。

決めた時間内にスマホの使用をやめることができた場合は、次回の使用時間を 1分間 短くします。

逆に、決めた時間を守れなかった場合は、次回の使用時間を 1分間長くします。

このように、できた場合には少しずつ使用時間を減らし、できなかった場合でも、1分間しか長くならないので、必要以上に喜んだり、がっかりすることはありません。

心理学的に考えると、失敗したときに自分を責めたり、落ち込んだりすると、自信を失い、いい習慣を身につけるうえで悪い影響を与えます。重要なのは、完璧を目指すことではありません。小さなルールを決めて、それを少しずつ改善していくことです。

YouTube などを楽しむ場合も、私はできるだけ知識が身につく内容を見るようにしています。そして、意味がないと思ったコンテンツには、「興味がない」という設定をして、できるだけ表示されないようにしています。

そうすれば、依存しやすい内容が次々と表示されなくなります。

できるだけスマホ以外の、健康的で楽しい趣味を持つようにする。意志の力だけに頼るのではなく、科学や心理学、そして環境設計を利用して、スマホをコントロールする。これが、私が実践している、科学的にスマホ依存から抜け出すための方法です。

ご清聴ありがとうございました。



4.「穏やかな生活」

Iuliia Burtseva【ロシア】

西東京市長賞

初めて日本に来たのは、15 年ぐらい前です。観光客でした。そのとき、日本は不思議で、すばらしいところだと思いました。私がこれまで知っていた場所とは、ぜんぜん違いました。そして、初めて外国に行ったときでもありました。

そのあと、もう一度日本に来て、6か月間住みました。百人町に住んでいました。新大久保からあまり遠くなくて、消防署のすぐ近くでした。時々、とてもうるさかったです。日本の日常生活を少し体験しました。いなげやで食べ物を買ったり、コインランドリーを使ったりしました。1月、雪の中を歩いて、セブンイレブンでおでんを買いました。でも、それでも、まだ日本の日常生活をあまり感じることができませんでした。それは、自分自身にあったのかもしれません。まだ日本に住むということが現実的に感じていなかったのかもしれません。もしかしたら、もっと時間が必要だったのかもしれません。

今、また日本にいて、すぐにロシアに帰る予定もありません。少しずつ、日本の日常生活に慣れてきました。日常生活は、たくさんの小さなことからできています。私にはまだ少し慣れていないこともあります。たとえば、たけのこを料理したり、午後に子どもたちが家に帰る時間の放送を聞いたり、夕方の音楽を聞いたりします。そして、私が住んでいる建物は古いので、冬は家の中でも寒いです。

でも、よく知っていることもあります。たとえば、日の出前の鳥の鳴き声を聞くこと。家の中でクモに会うこと。ベランダから夕日を見ることです。景色は違います。でも、そこにある静かな気持ちは同じです。

日常生活では、ほかの人との交流が大切です。人が集まる楽しいイベントを開いてくれる NIMIC のボランティアのみなさんに、とても感謝しています。何人かの人と知り合って、その人たちと話すことができ

ると、少しストレスが減ります。

人生には、ストレスを感じることがたくさんあります。これは、どの国でも同じだと思います。ロシアでは、自分の国の人が、となりの国の人を殺すために戦争に送られています。その結果、ロシアの人も亡くなっています。

日本では、そういうことは起きていないので嬉しいです。ずっとこのまま続いてくれることを願っています。道で、お酒を飲んだ人がけんかしているのを見たことさえありません。私が住んでいる建物の１階に、小さな居酒屋があります。お店が開いている夜は、お客さんが帰るときの声が聞こえます。みんな「さようなら」と言います。時々、子どもも一緒にいて、子どもも「さようなら」と言います。

それを聞くと、安心します。そして、穏やかな気持ちになります。夜に外を歩いても安全だと思うからです。人々は、けんかをしたいと思っていないのだと思います。

近所の人はみんな静かに暮らしています。私の小さな家族も、近所の人に迷惑をかけていないといいと思います。私は、穏やかな日常生活を本当に願っています。できれば、周りの人の役に立つこともできる生活がいいです。



5.「日本に来て感じたこと」

陳　麗萍　【中国】



みなさん、こんにちは。

チン　レイヘイと申します。出身は中国の洛陽です。現在、専門学校で勉強しています。

私は日本に来て、たくさんの新しい経験をしました。

例えば、日本に来て驚いたことは、冬でも冷たい水を飲むことです。[冬なのに、どうして冷たい水を飲むの？]と少し驚きました。冬でも冷たい水を飲んで、刺身を食べる日本人を見て、[日本人の胃が本当に丈夫だな]と思いました。

特に強く感じたことが3つあります。

一つ目は、日本で生活していると、[ありがとうございます]、[すみません]、[大丈夫ですか]などの言葉をよく耳にします。

最初は、少し小さなことでも[すみません]と言うことにびっくりしました。しかし、日本で生活するうちに、それは相手を大切にする気持ちの表れなのだとわかりました。

例えば、電車の中では、大きな声で話さない人が多く、周りの人に迷惑をかけないようにしています。

また、困っているときに、知らない人が声をかけて助けてくれたこともあります。そういう経験を通して、私も相手の立場を考えて行動することが大切だと思うようになりました。

二つ目は、日本の[時間を守る文化]です。

私は日本に来たばかりのころ、時間に対して意識の違いを感じました。今では、約束の時間より少し早く着くように心がけています。

時間を守ることは、ただ自分のためだけなく、相手の時間を大切にすることでもあると思います。

三つ目は、[新しいことを学ぶことの大切さ]です。

私は日本に来てから、日本語だけではなく、日本の文化や生活習慣、そして歯科衛生士になるための専

門知識も勉強しています。私にとって、簡単なことではありません。授業後に先生の説明が全部わからないこともあります。しかし、毎日基本を反復し、継続して勉強すると少しずつでも、必ず身についてくる。

もちろん、日本での生活は楽しいことばかりではありません。言葉が通じなくて困ったことや、文化の違いに戸惑ったこともあります。

でも、そうした経験があったからこそ、自分自身も少しずつ成長できたと思います。これからも、日本でたくさんのことを学び、いろいろな人と出会い、自分自身を成長させていきたいと思います。

そして、人の役に立つ仕事をしたいと思うようになりました。

最後に、日本に来てから、私を支えてくださった先生方や友達、さらに、私を応援してくれている家族に、心から感謝したいと思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、一歩一歩、自分の夢に向かって頑張っていきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



6.「ブラジルはあぶないゾ」



真理野　リューカ　【ブラジル】

みなさんこんにちは。日曜劇場「VIVANT」でおなじみの真理野リューカです。

今回はスピーチの機会をいただき、誠にありがとうございます。話を聞いてもらうのが大好きすぎて、とにかくこのスピーチコンテストに参加したいと思いましたが、なにを話せばいいのかわからなすぎて、最終的にブラジルネタがいいと判断しました。

みなさんはブラジルに対してどんなイメージをお持ちでしょうか。サッカーが強いという方もいれば、ブラジル人は常にサンバを踊っていると思っていらっしゃる方も大勢いるかと思います。自分は 4歳のときにブラジルを離れ、中学生くらいのときに戻ったというのもありまして、サッカーもサンバもよくわかりません。計14年間ブラジルで暮らし、よーく分かったことはただ一つ。治安が本当に終わっています。

今日紹介するエピソードは、私が中学2年生の頃のものです。今からちょうど 10年前で、ポケモン GO がリリースしたばかりの頃でした。今もそうなのですが、小さい頃からポケモンが大好き過ぎて、ポケモン GO をやりたくて仕方がありませんでした。そこで、13歳の自分、人生初スマホを親に買ってもらうことに。

ブラジルの登校は日本と違って、やはり危ないので、親が子どもを車で送ることが一般的です。車ではポケモン GO ができません。自分の母親に粘りました。学校まで歩いて 20分だし、どうしてもポケモン GO がやりたい！なんとか無事説得することに。

時間帯は早朝。車の多い道路だが、人の気配は全くありません。ポケモン GO たのしい！と思って楽しく遊んでいるその瞬間。見るからにヤバそうな男性1人が向かってきている。スマホはポケットに！目線は下方向へ！話しかけないでくれ！という思い以外、頭から吹き飛んだその途端に、

「俺ホームレスでお腹すいているんだ。小銭でもいいから、恵んでくれ。」

男が握手を求め、手を差し伸べた。思わず握手をしようとしたら、男の手が血まみれだということに気

づく。戸惑い、その結果握手せずに手を引く。

「そう、困ってるから。」　　ああなるほどこういうタイプね。まあこういう輩には小銭の 1枚や 2枚くらいやったらほっといてくれるし。

「はい、どうぞ。」

「ついでに財布とスマホも渡せ。俺銃持ってるぞ。」

渡すものか。ねだりにねだって買ってもらったスマホ。拳銃を実際に出されない限り、死んでも渡さん！

「絶っっ対にあげない！」

それを聞き、男は両手を広げ、私の体を掴もうとする。反射的に自分も両手を広げ、男の手を掴む。ブラジルの人通りの少ない道路の脇に早朝、中学生と成人男性が相撲を取る。

中学2年生の自分、その場で頭を振り絞って練れた唯一の作戦は以下の通り。少し歩けばマクドナルドがある。男を数センチずつ押していって、マックまでなんとかしてたどり着く。そこまで行けたら誰かがいるはず。

そう信じて攻撃に徹した。武器を出されたらそこで終わるが、こいつの手を抑えてれば行ける。勝てる。マクドナルドを目指している途中で、奇跡が起きた。車が一台、止まってくれた。運転席から男性が降りると、男が逃げた。助かった。

車のほうを見てみると、自分の中学のクラスメイトが座っている。登校の途中で困っている自分を見つけ、わざわざ助けに止まってくれたとのこと。お礼を死ぬほど言って、学校まで送っていただいた。学校に着くと、男の血で汚れた制服を脱ぎ、新しいのをもらう。今日も学校は賑やかだ。

結論として、ブラジルはめちゃくちゃ危ないです！しかし、その一方、危ないからこそ私たち良い国民が助け合わなきゃ！という精神も強く、国民の結束力も比較的高いとも言える。

私はそんな国が嫌だから逃げたがな☆

ご清聴ありがとうございました！！！！



7.「私が見つけた新しいふるさと　－　日本」



KANCHAN YADAV【インド】

皆さん、こんにちは。

お会いできてうれしいです。

私の名前はカンチャン・ヤダヴです。今日は、インドから日本に来て私が経験したことについて

お話します。

私は日本に行くと聞いたとき、とてもわくわくしたのですが、同時に少し不安な気持ちに

なりました。

インドには家族や友達がいるので、愛している人たちと離れることが少し寂しく感じました。

しかし、日本での新しい生活が始まるとき、私はとにかくベストをつくそうと思うように

なりました。

日本に着いてからの生活は私が考えていたものより難しいものでした。買い物に行くこと、

市役所に行くこと、そして毎日日本語を話すことなど、経験がないことばかりです。しかし、

少しずつ日本がわかるようになってきて、今では一人で買い物に出かけることができます。

今は西東京の日本語会話教室に参加しています。私の先生はとても親切で助けになります。

彼はいつもゆっくりと注意深く教えてくれます。日本語の勉強の中で、私たちはインドと日本の

文化についてもお話しします。その時間はとても楽しいです。私は心から先生に感謝しています。

インドにも日本にも多くのお祭りがあります。インドで好きなお祭りはディワリとホーリーです。

ディワリは光のお祭りです。

ホーリーは色のお祭りです。

私が日本で盆踊りに参加したとき、私はディワリを思い出しました。国の伝統は違いますが、

二つのお祭りは家族や地域の人が集まります。盆踊りは先祖を敬うお祭りで、最後に美しい花火が夜空に打ち上げられました。

ディワリも光や花火でお祝いするお祭りなので、私は二つのお祭りに特別なつながりを

感じました。

私は先日も家族と一緒に盆踊りに行きました。

私の娘は楽しそうに音楽に合わせて踊っていました。 夜には花火を見ました。

とてもきれいで忘れられない思い出になりました。

私は日本に来てから多くのことを学びました。はじめはすべてが難しかったですが、今では日本が好きになりました。インドは私のふるさと、そして日本が私の二番目のふるさとになりました。

ご清聴ありがとうございました。



8．「電車がつないでくれた、私とこの街」

馬　睿　【中国】



皆さんは、電車に乗るとき、何を見ていますか。

スマートフォンでしょうか。それとも、外の景色でしょうか。私は――電車そのものを見ています。私は昔から、電車が大好きです。電車に乗ることはもちろん、車両のデザインを見ること、走る音を聞くこと、駅や路線図を見ることも好きです。

日本に来て、東京の路線図を初めてじっくり見たとき、とても驚きました。JR、地下鉄、そしてたくさんの私鉄。色とりどりの線が、複雑に重なっています。でも、電車が好きな私にとっては、その複雑ささえ、とても魅力的でした。

「この電車は、どこまで行くんだろう。」「この駅で降りたら、何があるんだろう。」

そんな好奇心から、休日になると電車に乗って、いろいろな街へ出かけるようになりました。

中でも、私が特に好きになったのが、西武新宿線です。にぎやかな新宿を出発して、電車が進むにつれて、歴史がある川越まで、少しずつ街の景色が変わっていく。駅に着くたびに、人が乗り、人が降りる。 そして電車は、また次の街へ向かって走っていく。私は、そんな時間が大好きです。

私にとって電車は、ただ目的地まで移動するための乗り物ではありません。

知らない街へ連れていってくれる、「入口」なのです。

最初は、「この電車に乗ってみたい」という理由だけで出かけていました。でも、だんだん、「せっかく来たんだから、ここで降りてみよう」と思うようになりました。駅を出てみると、路線図には描かれていない街があります。商店街があり、住宅があり、公園があります。買い物する人。自転車で駅へ向かう人。学校から帰る子どもたち。そこには、その街で暮らす人たちの、普通の日常があります。

私はそこで、一つ気がつきました。路線図は、「駅がどこにあるか」は教えてくれます。でも、「その駅の向こうに、どんな街があるのか」までは教えてくれません。それを知るためには、自分で電車を降りて、自分の足で歩いてみなければならないのです。

そして私は、日本語も少し似ていると思うようになりました。

中国で日本語を勉強していたときは、単語を覚え、文法を勉強する事が中心でした。でも、日本で暮

らしてみると、日本語は、正しい答えを書くためだけのものではありませんでした。

お店で店員さんと話す。 仕事で同僚と相談する。 分からないことを誰かに聞く。 地域の人と話す。

そんな小さな会話の一つ一つが、知らない人と、私をつないでくれます。

電車は、駅と駅をつなぎます。 そして言葉は、人と人をつなぎます。

私は、電車と日本語の両方を通して、少しずつ日本の街を知るようになりました。

そして今、西東京市にも、とても親しみを感じています。

最近、鉄道好きの私にとって、とても嬉しいニュースがありました。

来年、2027年の春から、西武新宿線で「トキイロエクスプレス」が新しい特急電車として走り始める予定です。そして、その特急電車が、田無駅にも停まることになりました。このニュースを知ったとき、本当に嬉しくなりました。もちろん、新しい電車に乗れるから嬉しい。それだけではありません。

日本に来たばかりの頃、「田無」という名前は、私にとって路線図に書かれた駅名の一つでした。

この街も、路線図の中にある場所の一つでした。でも今の田無は、私とつながっている街です。

電車が好きだったから、街を知りました。街を知ったから、そこに暮らす人や、その街の日常にも興味を持つようになりました。

そして今日、このスピーチコンテストに参加したことで、西東京市と私の間に、また一つ、新しいつながりができました。

これからも私は、電車に乗って、まだ知らない駅で降りてみたいと思います。そこにはきっと、まだ知らない景色があります。まだ知らない人との出会いがあります。

電車が駅と駅をつなぐように、これから私は、もっとたくさんの人と、もっとたくさんの街と、つながっていきたいです。

電車がつないでくれた、私とこの街。

このつながりが、これからどこまで続いていくのか。

とても楽しみにしています。

ご清聴ありがとうございました。



9.「日本に住んでわかった言葉のニュアンスといろいろ」



郭 美玲【台湾】

こんにちは、私は台湾にいた時、日系企業で働いていました。

その頃は、会社には日本からの駐在員がいて、おかげさまで日本語をタダで学べることが出来ました。

また、私の仕事は毎日お客様からのクレームを受けることです。お客様に謝ることが専門です。

なので、日本語は鍛えられました。

日本語の敬語と丁寧語をたくさん覚えることができました。

ニュアンスの違いについては、実は夫と何度も何度も、喧嘩している内に気づいたのですが、例えば、夫がお茶碗を洗ってくれるんだよねと聞く、それを私はお茶碗洗ってくれる？と、聞こえるのです。

命令口調に聞こえて嫌でした。その後、お茶碗お願いしますに言葉を変えてもらい、今、平和です。

あとは、私が出掛ける時に、転ばないでねとか、車に轢かれないでねとか、川に落ちないでとか、なんか不吉なことを言うのでびっくりしました。とても不思議に思いました。

台湾の風習では、何事もスムーズに行くようにとか、成功するようにを言います。夫も今は合わせてくれて、今、とても平和です。

では、大丈夫と言う言葉について話しますね。

台湾では、大丈夫は、問題ないよとか、気にしないでとか、心配しないでという意味で使っていましたが、日本で生活してわかったことは、例えば、レジでレシートは要らないのを、レシートは大丈夫ですと言いますよね、結構ですを大丈夫と言います。

デパートで店員さんにジーンズを薦められた時も、大丈夫と言う。大丈夫とは、断る時にも使えるとは、

驚きました。

なので今は、何て言ったら良いかわからない時は、とりあえず大丈夫と言っています。大体なんとかなるみたいです。

台湾語では、ok は ok で、no は no です。最初の段階でとりあえず可能か不可能をはっきりさせます。日本語の場合は、例えば、ok だと思いますけど、たぶん ok じゃないと、柔らかく断りますよね。文書の前半ではいいよと言いながら、後半の方でダメと言います。もしかしたら、日本人は断るのは失礼になると思っているのかもしれませんね。

ここで少し言葉以外のことを話します。私は夫が出張でいない時があって、冷凍食品を食べまくっています。

日本は冷凍食品がすごく豊富です。パスタやお惣菜、居酒屋に出てくるメニューや、お弁当の具材がセットになっていて、それらに、レタスとか野菜を敷いたら、まるで時間を掛けて作ったものにそっくりです。日本の技術はさすがです。

台湾では共働きが多いことから、外食をする文化です。

台湾人は炒め物が好きなので、目の前で調理して、直ぐに食べられるのが美味しいからです。

食堂には 10種類くらいのおかずが並んであって、量り売りをやってるお店が多くて便利です。

以上になりますが、また日本語と台湾語のニュアンスの違いを見つけたら、皆さんとシェアーしたいと思います。

以上です。



10.「初心忘るべからず」

毛 靖賢【中国】

武蔵野大学
学長賞

皆さん、こんにちは。

中国・河南省の鄭州市出身の毛靖賢と申します。

私の故郷である鄭州は、数千年の歴史を持つ古い街であり、今では全国を結ぶ高速鉄道が行き交う、活気に満ちた大都市です。そんな街で育った私が、海を越えた日本に興味を持ったきっかけは、一本のアニメでした。それが、『四月は君の嘘』という作品です。

この作品は、トラウマを抱えてピアノが弾けなくなった元天才少年のピアニストが、一人のヴァイオリニストの少女と出会い、再び音楽と向き合っていく青春を描いた感動作です。私自身、幼い頃から長くピアノを習っていたため、劇中に流れる音楽や物語に強く惹き込まれました。

しかし、それと同じくらい私の心を捉えたのが、作品の中に描かれていた「街の風景」でした。駅や公園、住宅街、川沿いの道。有名な観光地ではなく、そこで暮らす人にとってはごく普通の日常の風景が、光にあふれ、息を呑むほど美しく描かれていたのです。

調べてみると、その多くが練馬区や西武線沿線など、東京に実在する場所だと知りました。「画面の向こうにある景色は、ただの絵ではなく、本当に誰かが毎日歩いている街なんだ」。そう実感した瞬間、それまで遠い異国だった日本が、一気に身近なものへと変わりました。

「いつか自分の目でこの景色を見てみたい」、その憧れはやがて「この街で暮らし、映像を学んでみたい」という強い想いへと変わり、16歳の時、私は一人で日本へ留学することを決めました。

来日以来、私はずっと西東京市で暮らしています。学生時代の通学も、友達と出かけた日も、そして仕事に向かう今も、毎日のように西武線を利用しています。かつて画面越しに憧れていた電車や駅が、いつの間にか私自身の「かけがえのない日常」になっていました。時々、ふと電車の窓から街を眺めると、「ああ、自分はこの景色に憧れて日本に来たんだな」と、当時の胸の高鳴りを思い出します。

その後、私は日本で 3DCG をはじめとする映像制作を学び、現在はアニメ制作会社で、実際に CG アニメを作る仕事に携わっています。かつて画面を見る側だった自分が、今では作る側に立っている。一本のアニメから始まった興味が、いつの間にか私の生活になり、学びになり、そして一生の仕事へとつながりました。

もちろん、好きなことを仕事にするのは、楽しいことばかりではありません。思い通りにいかない技術的な課題に直面したり、自分の力不足に悩んだりすることもしばしばあります。そんな壁にぶつかった時、私はいつも「そもそも自分は、なぜ日本に来たのだろう」と原点に立ち返るようにしています。

思い出すのは、16 歳のあの日の自分です。生活の大変さも仕事の厳しさも知らず、ただ純粋に「アニメが好きで、あの世界をもっと知りたい」と願っていたあの気持ち。それこそが、私の「初心」です。

「初心を忘れない」ということは、昔の夢や考え方に頑なに縛られ続けることではないと思います。環境が変わり、経験を重ねれば、目指す景色も変わっていくのが自然です。それでも、立ち止まりそうになった時に「自分がどこから歩み始めたのか」を振り返ることは、前を向くための大きな力になります。

16 歳で日本へ渡る決意をしてから、早いもので 10 年という月日が経ちました。もし今、当時の自分に会えるなら、「あの時、勇気を出して日本へ行ってくれてありがとう。今でも私は、ちゃんとアニメが好きだよ」と伝えたいです。

自分をここまで連れてきてくれた最初の気持ちを大切にしながら、これからもこの街で、誰かの心を動かすような映像を届けられるよう、一歩一歩進んでいきたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました。



11.「私が見つけた日本」



Justine Annan【ニュージーランド】

日本に来る前、私は日本のことをよく知っていると思っていました。多くの外国人と同じように、寿司、ラーメン、お寺、桜、アニメ、そしてにぎやかな東京を知っていました。日本には旅行で来たこともあったので、日本での生活がどんなものか、なんとなく分かっているつもりでした。でも、旅行で来ることと、実際に生活することは、全然違いました。

日本に住み始めた時、私は中央区の月島に住んでいました。都会の真ん中で生活するのは楽しかったです。とても便利で、いつもたくさんの人がいました。でも、不思議なことに、近所の人のことはほとんど知りませんでした。

その後、西東京市に引っ越しました。生活はもっと静かになりましたが、近所の人たちと話すようになりました。みなさんとても親切で、よく声をかけてくれます。特に、よく話す近所の男性がいます。実は 93歳です！初めて年齢を聞いた時、本当にびっくりしました。私は 65歳ぐらいだと思っていました！とても元気なんです。でも、彼は日本語をとても速く話します！時々、何を言っているのかほとんど分かりません。一生懸命聞いて、分かる言葉を探します。全部分からなくても、彼と話すのはいつも楽しいです。

近所の人が野菜を持ってきてくれることもあります。小松菜や人参、トマトなどです。小さなことかもしれませんが、私はとてもうれしいです。こういう毎日の経験のおかげで、西東京市が少しずつ自分の家のように感じられるようになりました。

もう一つ、私の生活で大切なのが日本語のクラスです。もちろん、日本語を上手になりたくてクラスに入りました。でも、そこで学んでいるのは日本語だけではありません。日本語のクラスを通して、地域の

日本人と出会い、自分が住んでいる町についてもいろいろと知ることができました。

そして、日本で生活している、いろいろな国の人たちとも出会いました。私は、その人たちの生活や経験について話を聞くのが好きです。同じ日本に住んでいても、日本の見え方はみんな違います。出身の国も、文化も、日本に来た理由も違います。私は「みんな、それぞれの日本があるんだ」と思うようになりました。

そして、前は「日本らしい」と思っていたことも、今では普通になりました。家に入る時に靴を脱ぐこと、電車の中で静かにすること、きちんと並ぶこと、そして一日に何回も「すみません」と言うことです。日本に来た友達に、「どうして、こうするの？」と聞かれることがあります。私は「日本では、こうするんだよ」と説明します。その時、「あ、私も変わったな」と思います。

もちろん、今でも日本には、びっくりしたり、笑ったりすることがあります。初めて日本のトイレを見た時、温かい便座やたくさんのボタンがあって、「日本は未来だ！」と思いました。でも、日本で銀行口座を作った時は、書類、ルール、手続き、そしてハンコも必要でした。「トイレは未来なのに、どうして銀行は昔みたいなの？」と思いました。

今、「日本」と聞いて思い出すものは違います。93歳の近所の人。野菜。日本語のクラス。いろいろな国の人たちの話です。どれも普通のことです。旅行で日本に来る人は、気づかないかもしれません。

日本に住んだからこそ、見つけることができた日本です。

これが、私の日本です。



集合写真



NIMIC代表開会宣言



池澤市長ご挨拶



武蔵野大学欒先生ご挨拶



発表風景





審査員の皆さん



発表者の皆さん



表彰式

西東京市長賞



武蔵野大学学長賞



NIMIC賞



敢闘賞

















子どもたちへ特別賞







市民審査員の皆さん



司会者



〔アトラクション〕
アフガニスタンの
音楽と舞踊





交流会







実行委員と当日スタッフ



◆協力、協賛団体や企業

【ご協力】武蔵野大学

【ご協賛】

一般社団法人 西東京市医師会

公益社団法人 西東京市歯科医師会

西東京市日本中国友好協会

国際ソロプチミスト 東京-西

学校法人 浜の真砂学園 明成幼稚園

株式会社 旭製菓

株式会社 アスタ西東京

株式会社 エクラアニマル

セブン-イレブン 田無駅南口店

一建設株式会社

東京土建一般労働組合 西東京支部

関根どうぶつ病院

株式会社東仁 東仁学生会館

（以上 13 社・団体のみなさま）

ありがとうございました！

西東京市日本語スピーチコンテスト 2026

2026年 11 月発行

編集・発行：NPO 法人西東京市多文化共生センター

連絡先 ：西東京市多文化共生センター内（イングビル）

住 所 ：〒188－0012 東京都西東京市南町 5－6－18

TEL & FAX ： 042(461)0381

E-mail ： info@nimic.jp

実行委員 ： 安藤恵 小野千穂 加藤祐子 清水智子 関口和子
高橋二朗 高畠和子 滝澤陽子 竹村正和 田村久教 菱山アディエネ
深田みのり 三村志津子 宮原健 村政幸 山辺真理子